

(3) 商工業の振興

活力ある商工業の振興を図るため、商工会との連携のもと、経営改善普及事業など地域経済活動を促進する事業を支援するとともに、中小企業の振興を図るため、中小企業育成資金の融資枠の維持と保証料の助成を継続してまいります。

八雲町の各産業部門の連携を促進し、地域資源のブランド化を目指してまいります。

企業誘致については厳しい情勢ではありますが、積極的に情報収集等に努めるとともに、地元企業との連携により新たな雇用創出の促進を図ってまいります。

海洋深層水事業についても引き続き企業誘致やPR活動に取り組んでまいります。

(4) 観光・地域物産の振興

これまで、観光と物産の振興を軸とした産業全般の活性化を目指す「交流人口の拡大による新しいまちづくりプロジェクト」を一昨年の春から重点的に実施してまいりました。

この取り組みによって、町内の産業・経済を担う方々などの連携が強化されつつあり、また、八雲町の価値を観光プログラムや地域特産品といった形で表現し、外貨を獲得するというスキームができてきたと見られます。

このプロジェクトの拠点として、本年1月に開業した八雲町



情報交流物産館「丘の駅」の運営はもとより、アンテナショップとして求めている機能、一つは情報発信と情報収集、もう一つは業の育成、これらをいかになく発揮させて、観光と物産による町の活性化を強力に進めてまいります。

観光の振興におきましては、これまで実施したモニターツアーから発展させ、本格的な旅行商品の造成とプロモーション、これらは間近に迫った北海道新幹線新函館駅(仮称)の開業に向けたスケジューリングを十分踏まえて進めてまいります。

物産の振興におきましては、新たに「町内資源の有効活用」、「流通対策」、「市場の条件を踏まえた販路開拓」など

をテーマとして、町内業者の認識や知見はもとより、開発スキルやマーケティング力の向上などを視野に入れた取り組みを展開し、町内業者の底上げを図るとともに、広く道内外に羽ばたく「二海八雲ブランド」作りを目指します。

なお、八雲町には、農林水産物や加工品などの物質的な資源のみならず、優れた人材やノウハウ、さらには、大学などの学術機関との交流や地元高校の取り組みなど、有形・無形の優れた資源がございます。

この観光・物産の振興は、そうした資源のさらなる掘り起こしやコラボレーションの促進に大いに期待できる分野であり、一連の取り組みを通じて、経済的な波及とともに体質の強いまちづくりに繋がってまいります。

利用客が低迷している熊石休養村については、老朽化したスポーツ施設など、合併特別債を活用したうえで解体し、跡地に幅広い年齢層の利用が見込めるパークゴルフ場を整備することにより交流人口の拡大を図ってまいります。

(5) 新産業の育成と雇用環境の整備

厳しい雇用情勢が続くなかで、道の特別基金による「緊急雇用創出推進事業」を引き続き活用し、人材育成・雇用の拡大を図ってまいります。

また、町単独事業の緊急就労対策事業を継続し、季節労働者の冬期間の雇用の場の確保を図るとともに、「渡島檜山北部通年雇用促進支援協議会」の取り組みを通じて季節労働者の通年雇用の促進を図るなど、雇用・就業機会の創出と安定に努めてまいります。

3. 道南北部の中心性をより高めるまちづくり

(1) 土地の有効活用と市街地、集落環境の整備

八雲シビックコア地区周辺環境整備については、出雲通整備事業と一体的に整備を進め、町民の憩いの場となるよう取り組んでまいります。

3・4・2出雲通整備事業については、第一期工事は終わりましたが、引き続き第二期工事の整備事業を北海道に要請してまいります。

町営住宅の整備については、既存住宅の有効利用として策定した公営住宅等長寿命化計画に沿って計画的に取り組んでまいります。

(2) 道路の整備

国道5号および277号、各道路の整備について、引き続き関係機関への要望を続けてまいります。

国道229号沿線等の高潮・越波対策につきましては、これまで順調に工事が進められております。引き続き要望箇所の整備について要請活動を続けてまいります。

町道については、橋の長寿命化修繕事業を進めるとともに、町民が安全に生活できるよう整備を進めてまいります。

(3) 公共交通の充実

路線バスの利便性向上対策は、現行路線の確保に向けた対策を講じるとともに、八雲・熊石両地域の交流促進を図る上で不可欠であることから、将来的な需要と財政負担を勘案した検討を継続してまいります。

北海道新幹線札幌延伸は昨年8月に起工したところですが、昨年12月に町内立岩トンネルの工事が入札公告され、今年秋頃までに着工すべく準備が進められており、4月には工事事務所が駅前設置される予定です。

今後も、早期完成に向けた要請活動の継続と公共交通確保の観点から、並行在来線の存続の検討について関係機関と連携しながら取り組んでまいります。

北海道縦貫自動車道八雲パーキングエリアは、隣接する噴火湾パノラマパークとともにハイウェイオアシスとして一体的に利用できる施設であり、訪れる利用者の利便性の向上と地域活性化を推進するため、スマート